

「面構成による葬送空間」

1、課題主旨／葬送空間を面構造により計画する。面構造とは柱や梁による架構ではなく、壁面／床面／屋根面の連続により構造躯体として成立するものを言う。厳密な構造計算による根拠は求めないが、モデル検討及び構造力学的見地に立った基本的な考察を必要条件とする。この構造体を構成する材料は石／コンクリート／鉄／ガラス等一般的に流通するものとし、社会的な合意を得られるコストを前提とすること。また、平面計画や建築造形において形態的メタファーによる合意を目的とせず、計画する環境(場／空間)に対して身体的な関心と理解を探究すること。高度な文化行為である葬送儀礼を熟慮し、そこに必要な空間と場の特殊性を構造・構成・構築概念を手がかりに物理的提案として創出する。

2、概要／名古屋市内に都市型火葬場を計画する。人と人の最後の別れの空間であり、送る側にとって記憶に残る貴重な場でもある。火葬場の諸室はプログラムとして設定(告別室／炉前ホール／収骨室／待合他)されている場合が多いが、それらの分節を利用するかどうかは選択次第である。その他必要空間を設定し理想的な葬送空間を提案すること。延べ床2000～3000㎡程度とし、炉は6基を計画する。この規模は名古屋市内の15万人の人口規模を想定、つまり炉の設定が6基程度となる。

3、敷地／名古屋市天白区天白町 八事霊園内

4、提出物／A1図面、完成モデル1:300、必要図面は各自設定し、第三者に十分な理解を得られることを目的とする。

5、スケジュール

12月 4日課題説明／スライドレクチャー、葬送プログラムスタディー(進行計画 A4作成)

12月22日エスキースチェック(スタディーモデル及び外観／内部空間スケッチ)

2006

1月18日講評

参考映画／「たそがれ清兵衛」「世界の中心で愛を叫ぶ」「わさび」など

参考図書

死の儀礼／ピーター、メカーフ／未来社	火葬場／八木澤壯一／大明堂
葬送の倫理／久野昭／精選復刻 紀伊国屋新書	建築資料研究会社46／葬祭場・納骨堂
葬送文化論／葬送文化研究会／古今書院	死と骨の習俗／藤井正雄／ふたばらいふ新書
葬祭の日本史／高橋繁行／講談社現代新書	お骨のゆくえ／横田睦／平凡新書
三途の川の渡り方／水木しげる／光文社	火葬場の立地／火葬研究協会／日本経済評論社